

アフターコロナの「ニューノーマル就活」

昭48年卒 経営 浅田 恭正

21年卒の就職活動は新型コロナの影響で異例づくめの就活でした。就活生も企業も初めての状況に直面して戸惑いながら、試行錯誤の手探りで就職・採用活動だったと思います。

一番の問題は対面接触を避けるため、対面での企業説明会や質問会、またリクルーター活動も実施できなかったことです。そして最も大きな影響を及ぼしたのが対面での面接からオンラインのWEB面接に切り替えて実施されたことです。企業が採否を決めるうえで一番の勝負どころが面接です。この最も大事な面接が対面でできなくなったことは企業にとっては最大の問題でした。

一方、学生側はというと、最初は戸惑いがあったものの早い時期にWEB面接に慣れてうまく使いこなしていました。また、時間の有効活用や交通費の節約といったメリットもあったようです。

ただ、このWEB面接が結果として学生側また企業側でどう影響があったのかは検証が必要とされるようです。

このようにコロナの影響を大きく受けた昨年の就職活動の特徴を総括するとすれば「二極化と長期化」に集約されると思います。

まずは早期に内定をもらった学生と、夏・秋まで就活を続けた学生の二極化です。この最大の要因が採用直結型のインターンシップの増加です。

多くの学生は3年生の夏ころからインターンシップに参加して企業研究を始めます。インターンシップの本来の目的は、学生に自社を紹介して会社や仕事を勉強し、社員や社風を感じてとってもらおうというものです。しかし数年前から企業はこのインターンシップを本来の目的とは別に、採用活動につなげたいという思惑で、学生を見て評価する機会として活用する傾向が増えてきました。企業はインターンシップに参加した学生の中からこれほど思う学生に対して、二次インターンシップへ参加を働きかけたり、リクルーターを通して有望な学生のフォローをしていきました。そして年明けの2月から3月にかけて人事部が面接をして、早期に実質内々定を出す企業が多く出てきたのです。

学生の中で、早くから計画的にインターンシップを受けて自己分析と企業研究を深掘りし、マッチング活動を着実に進めていった人は早期に内々定を獲得するという結果となり

ました。一方、インターンシップもあまり受けずに本格的に就活に取り組む時期が遅くなった学生は、予定していた3月からの従来形式の企業説明会が開催されず、企業研究が不十分な中で手探りの就職活動となり、内々定をもらえずに苦闘していくということになってしまいました。これが二極化です。

一方、企業サイドではインターンシップ参加組の中から一定数の採用内定は確保したものの、3月以降の時期に計画してきた採用活動が十分にできず、採用予定数を確保できないまま長期化していきました。

以上が昨年の就活を振り返ってみた概要と総括です。

次にアフターコロナの社会を見据え、これからの様々な変化を踏まえて「ニューノーマルの就活」という観点で今後の就職活動を考えてみたいと思います。

まず一点目が「社会の変化」です。

コロナに直面して、これまで潜在的なものとしてとらえられていた日本の課題が顕在化してきました。その最大のものが「IT化の遅れ」です。これまでも世界の中で、日本社会の生産性の低さ、遅れが指摘されてきていましたが、その最大の問題がIT化の遅れであるという現実がコロナによって目の前に突き付けられました。政府も本腰を入れてIT化、デジタル化政策を加速させていこうとしています。

今後、アフターコロナの社会ではIT化が進み、5G、6Gのインフラが整っていき、AI、IOTが日常生活の中にビルトインされ、DX(デジタルトランスフォーメーション)が進んでいくこととなります。学校でも生徒一人ひとりにパソコンが用意されて普通にパソコンを駆使できる人材が多数を占めていきます。それにつれて世代間、個人間においてデジタルデバイドが表面化していくことにもなります。

二点目に「企業の変化」です。

企業においても様々な変化が生じてくることとなりますが、その中の人事面での変化を見てみます。働き方としてテレワークが標準形となり、採用・雇用・人事管理では職能評価のメンバーシップ型雇用から職務評価のジョブ型雇用へ、また新卒一括採用から通年採用へ変わっていきます。その結果、企業の人事評価やマネジメントが「マスから個」へと重点がさらに移行していくこととなります。

三点目に「若者の意識の変化」です。

今の学生の職業観は我々の世代とは明らかに違ってきています。

仕事に対するモチベーションは「自己成長」「自分の力をつけること」が主流です。そしてその意識は「就社から就職」へと確実に変化しています。

その結果、「一つの会社にこだわらず、転職に対する抵抗感がない」「会社に対するロイヤルティよりも、仕事に対するロイヤルティが大きい」という傾向がみられます。

このような変化を見た時、これからは社会や企業、また個人一人ひとりが世の中の多様性を受け入れるとともに、様々な環境の変化に対して柔軟に対応していくことが、これまで以上に求められていきます。大学も例外ではありません。

一方、就職活動において学生諸君にとって最も大事なことは「これからの多様な社会・環境の変化を見据えて今を大切に、自分自身を深く見つめること」だと思います。どんなことに興味と関心があるのか、社会に出てこれからの人生で何がしたいのか、やりたいことができるステージはどこにあるのか、そしてそのステージにおいて自分の姿を明確に描けているのか。このように「自分」というものをとことん深く掘り下げ、考え抜いていくことが何より大切だと思います。

学生諸君はこの就職活動のプロセスに正面から真摯に取り組むことで、ビジネス社会において必要な「考え抜く力」や「他者との関係を築く力」が醸成されていきます。

就活生の皆さん。社会に出ていく登竜門であるこれからの就職活動に向かって、我々相談員と一緒にチャレンジしていきましょう。